

校異源氏物語・みゆき

かくおほしいたらぬことなくいかてよからむことはとおほしあつかひ給へこのをとなしのたきこそうたていとおしくみなみのうへの御をしはかりことになひてかるくしかるへき御なれかのおと、なにことにつけてもきはきはしうすこしもかたはなるさまのことをおほし、のはすなどものしたまふ御心さまをさて思ひくまなくけさやかなる御もてなしなどのあらむにつけてはおこかましうもやなとおほしかへさふそのしはすに大原野の行幸とてよにのこる人なくみさはくを六条院よりも御かた／＼ひきいてつゝみたまふうの時にいてたまうて朱雀より五条のおほちをにしさまにおれたまふかつらかはのもとまで物見くるまひまなし行幸といへとかならずかうしもあらぬをけふはみこたちかむたちめもみな心ことに御むまくらをとゝのへすいしんむまそひのかたちたけたちさうそくをかざりたまふつゝめつらかにおかし左右大臣納言よりしもはたましてのこらすつかうまつり給へりあを色のうへのきぬゑひそめのしたかさねを殿上人五位六位まできたり雪たゝいさゝかつゝうちゝりてみちのそらさへえむなりみこたちかむたちめなともたかにかかつらひたまへるはめつらしきかりの御よそひともをまうけ給このゑのたかゝいともはましてよにめなれぬすり衣をみたれきつゝけしきことなりめつらしうおかしきことにきをひいてつゝその人ともなくかすかなるあしよはきくるまなどわをおしひしかれあはれけなるもありうきはしのもとにもこのましうたちさまよふよきくるまおほかりにしのたひのひめきみもたちいてたまへりそこはくいとみつ／＼給へる人の御かたちありさまをみ給にみかとのあか色の御そたてまつりてうるはしうゝこきなき御かたはらめになすらひきこゆへき人なしわかちゝおとゝを人しれすめをつけたてまつり給へときら／＼しう物きよけにさかりにはものしたまへとかきりありかしいと人にすぐれたるたゝ人とみえて御こしのうちよりほかにめうつるへくもあらずましてかたちありやおかしやなとわかきこたちのきえかへり心うつす中少将なにくれの殿上人やうの人はなにゝもあらずきえわたれるはさらにたくひなうおはしますなりけり源氏のおとゝの御かほさまはこと物ともみえ給はぬをおもひなしのいますこしいつかしうかたしけなくめてたきなりさはかゝる

たくひはおはしかたかりけりあてなる人はみな物きよけにけはひことなへい物とのみおと、中将などの御にほひにめなれ給へるをいてきえとものかたはなるにやあらむおなしめはなともみえすくちおしうそをされたるや兵部卿宮もおはす右大将のさはかりをもりかによしめくもけふのよそひいとなまめきてやなくひなどおひてつかうまつり給へりいろくろくひけかちにみえていと心月なしかてかは女のつくろひたてたるかほの色あひにはにたらむいとわりなきことをわかき御心地にはみをとしたまうてけりおと、の君のおほしよりての給ことをいか、はあらむ宮つかへは心にもあらてみくるしきありさまにやとおもひつ、み給うをなれくしきすちなとをはもてはなれておほかたにつかうまつり御らむせられんはおかしうもありなむかしと思よりたまうけるかうてのにおはしましつきて御こしと、めかむたちめのひらはりに物まいり御さうそくともなをしかりのよそひなどにあらため給ほとに六条院より御みき御くた物なとたてまつらせ給へりけふつかうまつり給へくかねて御けしきありけれと御物いみのよしをそうせさせ給へりけるなりけりくら人の左衛門のせうを御つかひにてきしひとえたたてまつらせたまふおほせことにはなにとかやさやうのおりのことまねふにわつらはしくなむ

雪深きをしほの山にたつきしのふるき跡をもけふは尋よ太政大臣のかゝる野の行幸につかうまつり給へるためしなとやありけむおと、御つかひをかしこまりもてなさせ給

小塩山みゆきつもれる松原にけふはかりなるあとやなからむとそのころを

ひき、しことのそはく思いてらるゝはひかことにやあらむ又の日おと、にし
のたいにきのふうへはみたてまつりたまひきやかのことはおほしなひきぬらん
やときこえ給へりしろきしきにいとちとけたるふみこまかにけしきはみて
もあらぬかおかしきをみたまうてあいなのことやとわらひたまふ物からよくも
おしはからせ給物かなとおほす御返にきのふは

うちきえしあさくもりせしみ雪にはさやかに空の光やはみしおほつかなき

御ことともになむとあるをうへもみたまふさゝのことをそゝのかしかと中宮かくておはすこゝなからのおほえにはひなかるへしかのおと、にしられても女御かくて又さふらひ給へはなと思ひたるめりしすちなりわか人のさもなれつかうまつらむには、かるおもひなからむはうへをほのみたてまつりてえかけはなれて思ふはあらしとの給へはあなうたてめてたしとみたてまつるとも心もて宮つかひ思たらむこそいとさしすきたる心ならめとてわらひたまふいてそこにしも

そめてきこえたまはむなどのたまふて又御返

あかねさす光は空にくもらぬをなとてみ雪にめをきらしけむなをおほした

てなとたえすすゝめ給とてもかうてもまつ御もきのことをこそはとおほしてその御まうけの御てうとのこまかなるきよらともくはへさせたまひなにくれのきしきを御心にはいともおもほさぬことをたにをのつからよたけくいかめしくなるをましてうちのおとゝにもやかてこのついてにやしらせたてまつりてましとおほしよれはいとめてたくなむとしかへりて二月にとおほすをむなはきこえたかくなかくしたまふへきほとならぬも人の御むすめとてこもりおはするほとはかならずしもうちかみの御つとめなとあらはならぬほとなれはこそとし月はまきれすくし給へこのもしおほしよることもあらむにはかすかのかみの御心たかひぬへきもつるにはかくれてやむましき物からあちきなくわさとかましきのちの名までうたゝあるへしなをくゝしき人のきはこそいまやうとてはうちあらたむることのたはやすきもあれなとおほしめくらすにおやこの御ちきりたゆへきやうなしおなしくは我心ゆるしてをしらせたてまつらむなとおほしさとめてこの御こしゆひにはかのおとゝをなむ御せうそこきこえ給ふければ大宮こそそのふゆつたかよりなやみたまふことさらにをこたりたまはねはかゝるにあはせてひなかるへきよしきこえ給へり中将の君もよるひる三条にそさふらひ給て心のひまなくものしたまうておりあしきをいかにせましとおほすよいとさためなし宮もうせさせ給はゝ御ふくあるへきをしらすかほにてもなし給はむつみふかきことおほからむおはする世にこのことあらはしてむとおほしとりて三条の宮に御とふらひかてらわたりたまふいまはましてしのひやかにふるまいたまへとみゆきにおとらすよそほしくいよくゝひかりをのみそへ給ふ御かたちなどのこの世にみえぬ心ちしてめつらしうみたてまつり給にはいとゝ御こゝちのなやましさととりすてらるゝ心ちしておき給へり御けうそくにかゝりてよはけなれと物なといとよくきこえ給けしうはおはしまささりけるをなにかしのあそむの心まとはしておとろくゝしうなけきゝこえさすめれはいかやうに物せさせたまふにかとなむおほつかなかりきこえさせつるうちなにもことなるついてなきかきりはまいらすおほやけにつかふる人ともなくてこもりはへれはよろつうあゝしうよたけくなりにてはへりよはひなどこれよりまさる人こしたへぬまてかゝまりありくためしむかしもいまもはへめれとあやしくおれくゝしき本上にそふものうさになむはへるへきなときこえ給としのつものなやみとおもふ給へつゝ月ころになりぬるをことしとなりてはたのみすくなきやうにおほえはへ

れはいまひとたひかくみたてまつりきこえさすることもなくてやと心ほそく思
たまへつるをけふこそ又すこしのひぬる心ちしはへれいまはおしみとむへきほ
とにもはへらすさへき人ゝにもたちをくれよのすゑにのこりとまれるたくひ
を人のうへにていと心つきなしとみはへりしかはいてたちいそきをなむおもひ
もよをされはへるにこの中将のいとあはれにあやしきまておもひあつかひ心を
さはいたまふみはへるになむさまゝにかけとめられていまゝてなかひきは
へるとたゝなきになきて御こゑのわなゝくもおこかましけれとさることゝもな
れはいとあはれなり御物かたりともむかしいまのとりあつめきこえたまふつい
てにうちのおとゝは日へたてすまいりたまふことしけからむをかゝるついてに
たいめむのあらはいかにうれしからむいかてきこえしらせんと思ふことの侍を
さるへきついてなくてはたいめんもありかたければおほつかなくてなむときこ
えたまふおほやけことのしけきにやわたくしの心さしのふかゝらぬにやさしも
とふらひものしはへらすのたまはすへからむことはなにさまのことにかは中将
のうらめしけにおもはれたることもはへるをはしめのことはしらねといまはけ
にきゝにくゝもてなすにつけてたちそめにし名のとりかへさるゝ物にもあらず
おこかましきやうにかへりてはよ人もいひもらすなるをなともしはへれはた
てたる所むかしよりいとゝけかたき人の本上にて心えすなんみ給ふるとこの中
将の御ことゝおほしてのたまへはうちわらひ給ていふかひなきにゆるしすてた
まふこともやときゝはへりてこゝにさへなむかすめ申やうありしかといときひ
しういさめ給よしをみ侍しのちなにゝさまでことをませはへりけむと人わる
うくいおもふたまへてなむよろづのことにつけてきよめといふことはへれはい
かゝはさもととりかへしすゝいたまはさらむとは思たまへなからかうくちおしき
にこりのすゑにまちとりふかうすむへき水こそいてきかたかへいよなれなにこ
とにつけてもすゑになればおちゆくけちめこそやすくはへめれいとほしうきゝ
たまふるなと申たまうてさるはかのしり給へき人をなむおもひまかふること
はへりてふいにたつねとりて侍をそのおりはさるひかわさともあかし侍らすあり
しかはあなちにかことの心をたつねかえさふ事もはへらてたゝさるものゝくさ
のすくなきをかことにてもなにかはとおもふたまへゆるしておさゝむつひも
みはへらすしてとし月はへりつるをいかてかきこしめしけむうちにおほせらる
ゝやうなむあるないしのかみみやつかへする人なくてはかの所のまつりことし
とけなく女官などもおほやけことをつかうまつるにたつきなくことみたるゝや
うになむありけるをたゝいまうへにさふらふこらうのすけ二人又さるへき人

くさまくしに申さするをはかくしうえらはせたまはむたつねにたくふへき
人なむなき猶いへたかふ人のおほえかろからていへのいとなみたてたらぬひと
なむいにしへよりなりきにけるしたゝかにかしこきかたのえらひにてはその人
ならでもとし月のらうになりほるたくひあれとしかたくふへきもなしとなら
はおほかたのおほえをたにえらせたまはとなむうちくにおほせられたりし
をにけなきことゝしもなにかはおもひたまはむ宮つかへはさるへきすちにて上
も下も思ひをよひいてたつこそ心たかきことなれおほやけさまにてさる所のこ
とをつかさとりまつりことのおもふきをしたゝめしらむことははかくしから
すあはつけきやうにおほえたれとなとか又さしもあらむたゝわか身のありさま
からこそよろつのことはへめれと思より侍しつてになむよはひのほとなど
ゝひきゝはへれはかのおほむたつねあへいことになむありけるをいかなへいこ
とそとも申あきらめまほしうはへるついてなくてはたいめ侍へきにも侍らすや
かてかゝることなんとあらはし申へきやうを思めぐらしてせうそこまうしゝを
御なやみにことつけてものうけにすまひたまへりしけにおりしもひんうおも
ひとまり侍によろしうものせさせ給ければ猶かうおもひおこせるついでにとな
むおもふ給ふるさやうにつたへものせさせたまへときこえ給ふ宮いかにく侍
けることにかかしこにはさまくにかゝるなのりする人をいとふことなくひろ
いあつめらるめるにいかなる心にてかくひきたかへかこちきこえらるらむこの
としころうけたまはりてなりぬるにやときこえたまへはさるやうはへることな
りくはしきさまはかのおとゝもをのつからたつねきゝたまうてむくたくしき
なを人のなからひにゝたることにはへれはあかさんにつけてもらうかはしう人
いひつたへはへらむを中將のあそんにたにまたわきまへしらせはへらす人にも
もらさせ給ましと御くちかためきこえたまふうちのおほゑとのかく三条の宮に
大きおとゝわたりおはしまいたるよしきゝたまひていかにさひしけにていつか
しき御さまをまちうけきこえ給らむこそんともゝてはやしおましひきつくろふ
人もはかくしうあらしかし中將は御ともにこそものせられつらめなどおとろ
き給ふて御ことの君たちむつまじうさるへきまうち君たちたてまつれ給御く
た物御みきなどさりぬへくまいらせよ身つからもまいるへきをかへりて物さは
かしきやうならむなどのたまふほとに大宮の御ふみあり六条のおとゝのとふら
ひにわたりたまへるを物さひしけに侍れは人めのいとおしうもかたしけなうも
あるをことゝしうかうきこえたるやうにはあらてわたり給なんやたいめむに
きこえまほしけなることもあなりときこえ給へりなにかはあらむこのひ

め君の御こと中将のうれへにやとおほしはすに宮もかう御世のこりなけにて
このことゝせちにのたまいおとゝもにくからぬさまにひとことうちいてうらみ
たまはむにとかく申かへさふことえあらしかつれなくもおもひいれぬをみる
にはやすからずさるへきついてあらは人の御ことになひきかほにてゆるしてむ
とおほす御心をさしあはせてのたまはむことゝおもひよりたまふにいとゝいな
ひ所なからむか又なとかさしもあらむとやすらはるゝいとけしからぬ御あやに
く心なりかしされと宮かくのたまひおとゝもたいめむすへくまちおはするにや
かたゝゝにかたしけなしまいりてこそは御けしきにしたかはめなとおもほしな
りて御さうそく心ことにひきつくろひてこそせんなともことゝしきさまにはあ
らてわたりたまふ君たちいとあまたひきつれていたりたまふさまものゝゝしうた
のもしけなりたけたちそゝろかにものしたまふにふとさもあひていとうとく
におもゝちあゆまひ大臣といはむにたらひたまへりゑひそめの御さしぬきさく
らの下かさねいとなかうはしりひきてゆるゝとことさらひたる御もてなしあ
なきらゝしとみえたまへるに六条とのはさくらのからのきの御なをしいまや
ういろの御そひきかさねてしとけなきおほ君すかたいよゝたとへん物なしひ
かりこそまさり給へかうしたゝかにひきつくろひ給へる御ありさまになすらへ
てもみえたまはさりけりきみたちつきゝにいと物きよけなる御なからひにて
つとひ給へり藤大納言春宮大夫などいまはきこゆることもゝみななりいてつゝ
ものしたまふをのつからわざともなきにおほえたかくやむことなき殿上人くら
ひとのとう五位のくら人近衛の中少将弁官など人からはなやかにあるへかしき
十よ人つとひたまへれはいかめしうつきゝのたゝ人もおほくてかはらけあま
たゝひなかれみなゑひになりてをのゝかうさいはひ人にすくれ給へる御あり
さまを物かたりにしけりおとゝもめつらしき御たいめんむかしのことおほし
いてられてよそゝにてこそはかなきことにつけていとましき御心もそふへか
めれさしむかひきこえ給てはかたみにいとあはれなることのかすゝおほしい
てつゝれいのへたてなくむかしいまのことゝもとしころの御物かたりに曰くれ
ゆく御かはらせなとすゝめまいりたまふさふらはてはあしかりぬへかりけるを
めしなきにはゝかりてうけたまはりすくしてましかは御かうしやそはましと申
たまふにかむたうはこなたさまになむかうしとおもふことおほくはへるなどけ
しきはみたまふにこのことにやとおほせはわつらはしうてかしこまりたるさま
にてものしたまふむかしよりおほやけわたくしのことにつけて心のへたてなく
大小のこときこえうけたまはりはねをならふるやうにておほやけの御うしろみ

をもつかうまつるとなむおもふたまへしをすゑのよとなりてそのかみ思たまへしほいなきやうなることうちましりはへれとうちのわたくしことにこそはおほかたの心さしはさらにうつろふことなくなむなにもなくてつもりはへるとしよはひにそへていにしへのことなんこひしかりけるをたいめん給はることもいとまれにのみはへれはことかきりありてよたけき御ふるまひとは思たまへなからしたしきほとにはその御いきをひをもひきしゝめたまひてこそはとふらひものしたまはめとなむうらめしきおりくはへるときこえたまへはいにしへはけにおもなれてあやしくたいたいしきまてなれさふらひ心にへたつることなく御らむせられしをおほやけにつかうまつりしきはゝはねをならへたるかすにも思ひはへらてうれしき御かへりみをこそはかくしからぬ身にてかゝるくらゐにをよひ侍て大やけにつかうまつりはへることにそへてもおもふたまへしらぬにははへらぬをよはひのつもりにはけにをのつからうちゆるふことのみなむおほく侍けるなどかしこまりまうしたまふそのついでにほのめかして給てけりおとゝいとあはれにめつらかなることに侍かなとまつうちなき給てそのかみよりいかになりにけむとたつねおもふたまへしさまはなにのついでにか侍けむうれへにたへすもらしきこしめさせし心ちなむし侍るいまかくすこし人かすにもなりはへるにつけてはかくしからぬものとものかたくにつけてさまよひ侍をかたくなしくみくるとみ侍につけても又さるさまにてかすくにつらねてはあはれにおもふたまへらるゝおりにそへてもまつなむ思たまへいてらるゝとのたまふついでにかのいにしへのあまよの物かたりにいろくなりし御むつことのさためをおほしいてゝなきみわらひみみなうちみたれたまひぬ夜いたうふけてをのくあかれたまふかくまいりきあひてはさらにひさしくなりぬるよのふることおもふたまへいてられこひしきことのしのひかたきにたちいてむ心ちもしはへらすとておさく心よはくおはしまさぬ六条とのもゑいなきにやうちしほれたまふ宮はたまいてひめ君の御ことをおほしいつるにありしにまさる御ありさまいきをひをみたてまつりたまふにあかすかなしくてゝめかたくしほしほとなきたまふあまころもはけに心ことなりけりかゝるついでなれと中将の御ことをはうちいてたまはすなりぬひとふしようになしとおほしをきてければくちいれむことも人わるくおほしとゝめかのおとゝはた人の御けしきなきにさしすくしかたくてさすかにむすほゝれたる心ちしたまうけりこよひも御ともにさふらふへきをうちつけにさはかくもやとてなむけふのかしこまりはことさらになむまいるへくはへるとまうしたまへはさらはこの御なやみもよろし

うみえたまふをかならずきこえし日たかへさせ給はすわたり給へきよきこえちきりたまふ御けしきともようてをのくいてたまふひ、きいとかめしきみたちの御ともの人くになにことありつるならむめつらしき御たいめにいと御けしきよけなりつるは又いかなる御ゆつりあるへきになたとひか心をえつ、かゝるすちとはおもひよらさりけりおと、うちつけにいとふかしう心もとなうおほえたまへとふとしかうけとりおやからむもひなからむたつねえたまへらむはしめをおもふにさためて心きようみはなち給はしやむことなきかたくをは、かりてうけはりてそのきにはもてなさすかにわつらはしう物のきこえを思てかくあかしたまふなめりとおほすはくちおしけれとそれをきすとすへきことかはことさらにもかの御あたりにふれははせむになとかおほえのおとらむ宮つかへさまにおもむきたまへらは女御などのおほさむこともあちきなしとおほせと、もかくもおもひよりの給はむをきてをたかふへきことかはとよろつにおほしけりかくのたまふは二月ついたちころなりけり十六日ひかむのはしめにていとよき日なりけりちかう又よきひなしとかうかへ申けるうちに宮よろしうおはしませはいそきたちたまうてれいのわたりたまうてもおと、に申あらはし、さまなどいともまかにあへきこと、もをしへきこえたまへはあはれなる御心はおやときこえなからもありかたからむをとおほす物からいとなむうれしかりけるかくてのちは中将の君にもしのひてかゝることの心のたまひしらせけりあやしのこと、もやむへなりけりとおもひあはすること、もあるにかのつれなき人の御ありさまよりも猶もあらず思ひいてられておもひよらさりけることよとしれくしき心ちすされとあるましうねちけたるへきほとなりけりとおもひかへすことこそはありかたきまめくしきなめれかくてその日になりて三条の宮よりしのひやかに御つかひあり御くしのはこななどにはかなれとこと、もいときよらにしたまうて御ふみにはきこえむにもいまくしきありさまをけふはしのひこめ侍れとさるかたにてもなかきためしはかりをおほしゆるすへうやとてなむあはれにうけたまはりあきらめたるすちをかけきこえむもいか、御けしきにしたかひてなむ

ふた方にいひもてゆけは玉くしけわか身はなれぬかけかなりけりといとふるめかしうわな、きたまへるをとのもこなたにおはしましてこと、も御らむしさたむる程なれはみたまうてこたいなる御ふみかきなれといたしやこの御てよむかしは上すにものしたまけるをとしにそへてあやしくおいゆく物にこそありけれいとからく御てふるひにけりなとうちかへしみたまうてよくもたまくしけ

にまつはれたるかな三十一字のなかにこともしはすくなくそへたることのかたきなりとしのひてわらひたまふ中宮よりしろき御もからきぬ御さうそく御くしあけのくなといとなくなてれいのつほともからのたき物心ことにかほりふかくてたてまつり給へり御かたかたみな心くゝに御さうそく人くゝのれうにくしあふきまでとりくゝにしいて給へるありさまおとりまさらすさまくゝにつけてかはかりの御心はせともにいとみつくしたまへれはおかしうみゆるをひむかしの院の人くゝもかゝる御いそきはきゝたまうけれどもとふらひきこえ給へきかすならねはたゝきゝすくしたるにひたちの宮の御方あやしうものうるはしうさるへきことのおりすくさぬこたいの御心にていかてかこの御いそきをよそのことゝはきゝすくさむとおほしてかたのことなむしいてたまうけるあはれなる御心さしなりかしあをにひのほそなかひとかさねおちくりとかやなにとかやむかしの人のめてたうしけるあはせのはかま一くむらさきのしらきりみゆるあられちの御こうちきとよきころもはこにいれてつゝみいとうるはしうてたてまつれたまへり御ふみにはしらせたまふへきかすにも侍らねはつゝましかれとかゝるおりはおもたまへしのひかたくなむこれいとあやしけれと人にもたまはせよとおひらかなりとの御らむしつけていとあさましうれいのおほすに御かほあかみぬあやしきふる人にこそあれかく物つゝみしたる人はひきいりしつみ入たるこそよけれさすかにはちかましやとて返ことはせはしたなくおもひなむちゝみこのいとかなしうしたまひけるおもひいつれは人におとさむはいと心くるしき人也ときこえたまふ御こうちきのたもとにれいのおなしすちのうたありけり

我身こそ恨られけれから衣君かたもとなれすとおもへはおほむてはむかしたにありしをいとわりなうしゝかみゑりふかうつようかたうかきたまへりおとゝにくき物のおかしさをえねんし給はてこのうたよみつらむほとこそましていまはちからなくてところせかりけむいとおしかりたまふいてこの返ことさはかしうともわれせんと給てあやしう人のおもひよるましき御心はへこそあらてもありぬへけれとにくさにかきたまうて

唐衣又から衣からころもかへすくゝもから衣なるとていとまめやかにかの人のたてゝこのむすちなれはものしてはへるなりとてみせたてまつりたまへはきみいとにほひやかにわらひたまひてあないとおしろうしたるやうにもはへるかなとくるしかり給ようなしこといとおほかりやうちのおとゝはさしもいそかれたまふましき御心なれとめつらかにきゝたまふしのちはいつしかと御心にか

ゝりたれはとくまいり給へりきしきなとあへいかきりに又すきてめつらしきさまにしなさせたまへりけにわさと御こゝろとゝめたまふけることゝみたまふもかたしけなき物からやうかはりておほさるゐるときにていれたてまつりたまふれいの御まうけをはさる物にてうちのおましいとになくしつらはせたまうて御さかなまいらせたまふ御となふられいのかゝる所よりはすこしひかりみせておかしきほとにもてなしきこえたまへりいみしうゆかしう思きこえ給へとこよひはいとゆくりかなへければひきむすひたまふほとえしのひたまはぬけしきなりあるしのおとゝこよひはいにしへさまのことはかけはへらねはなにのあやめもわかせたまふましくなむ心しらぬ人めをかさりて猶よのつねのさほうにときこえ給けにさらにきこえさせやるへき方はへらすなむ御かはらけまいるほとにかきりなきかしこまりをはよにためしなきことゝきこえさせなからいまゝてかくしのひこめさせ給けるうらみもいかゝそへはへらさらむときこえたまふうらめしや興津玉もをかつくまで磯かくれけるあまの心よとて猶つゝみもあへすしほたれたまふひめ君はいとはつかしき御さまものさしつとひつゝましさにえきこえたまはねは殿

よるへなみかゝるなきさにうちよせてあまもたつねぬもくつとそみしいとわりなき御うちつけことになんときこえたまへはいとことほりになんときこえやる方なくていてたまひぬみこたちつきゝ人ゝのこるなくつとひたまへり御けさう人もあまたましりたまへれはこのおとゝかくいりおはしてほとふるをいかなることにかとうたかひたまへりかのとゝきむたち中将弁のきみはかりそほのしり給へりける人しれすおもひしことをからうもうれしうもおもひなりたまふ弁はよくそうちいてさりけるとさゝめきてさまことなるおとゝの御このみともなめり中宮の御たくひにしたてたまはむとやおほすらむなどをのいふよしをきゝたまへと猶しはしは御心つかひしたまうてよにそしりなきさまにもてなさせたまへなにことも心やすきほとの人こそみたりかはしうともかくもはへかめれこなたをもそなたをもさまゝ人のきこえなやまさむたゝならむよりはあちきなきをなたらかにやうゝ人めをもならすなむよきことにははへるへきと申たまへはたゝ御もてなしになんしたかひ侍へきかうまでこらむせられありかたき御はくゝみにかくろへ侍けるもさきの世のちきりをろかならしと申たまふ御をくり物なとさらにもいはすゝへてひきいて物ろくとしなゝにつけてれいあることかきりあれと又ことくはへになくせさせたまへりおほ宮の御なやみにことつけたまうしなこりもあればことゝしき御あそひなどはなし

兵部卿の宮いまはことつけやり給へきと、こほりもなきをとをりたちきこえ給へとうちより御けしきあることかへさひそうし又またおほせことにしたかひてなむことさまのことはともかくも思さたむへきとそきこえさせ給けるち、おとゝはほのかなりしさまをいかてさやかに又みむなまたほなることみえたまはゝかうまでことゝしうもてなしおほさしなど中ゝ心もとなうこひしう思きこえたまふいまそかの御ゆめもまことにおほしあはせける女御はかりにはさたかなることのさまをきこえ給ふけり世の人きゝにしはこのこといたさしとせちにこめたまへとくちさかなきものはよの人なりけりしねんにいひもらしつゝやうゝきこえてくるをかのさかな物のきみきゝて女御のおまへに中将少将さふらひたまふにいてきて殿は御むすめまうけたまふへかなりあなめてたやいかなる人二かたにもてなさるらむきけはかれもとりはらなりとあふなけにのたまへは女御かたはらいたしとおほしてもものたまはす中将しかゝしつかるへきゆへこそ物したまふらめさてもたかいひしことをかくゆくりなくうちいて給ふそ物いひたゝならぬ女房などこそみゝとゝむれとのたまへはあなかまみなきゝてはへりないしのかみになるへかなり宮つかへにといそきいてたち侍しことはさやうの御返しもやとてこそなへての女房たちにつかふまつらぬことまておりたちつかうまつれおまへのつらくおはします也と恨みかくれはみなほほゑみてないしのかみあかはなにかしこそそのそまんとおもふをひたうにもおほしかけるかななどのたまふにはらたちてめてたき御中にかすならぬ人はましるましかりけり中将の君そつらくおはするさかしらにむかへたまひてかろめあさけり給ふせうせうの人はえたてるましきとのゝうちなあなかしこゝとしりゑさまにゐさりしそきてみおこせたまふにくけもなけれといとはらあしけにましりひきあけたり中将はかくいふにつけてもけにしあやまちたることゝおもへはまめやかにてものしたまふ少将はかゝるかたにてもたくひなき御ありさまををろかにはよもおほさし御心しつめたまふてこそかたきいはほもあはゆきになしたまふつへきおほむけしきなれはいとようおもひかなひたまふときもありなむとほほゑみていひる給へり中将もあまのいはとさしこもりたまひなんやめやすくとてたちぬれはほろゝとなきてこのきみたちさへみなすけなくしたまふにたゝ御前の御心のあはれにおはしませはさふらふなりとていかやすくいそしく下らうわらはへなどのつかうまつりたらぬさうやくをもたちはしりやすくまとひありきつゝ心さしをつくしてみやつかへしありきてないしのかみにをれを申したまへとせめきこゆれはあさましういかにおもひていふことならむと

おほすに物もいはれ給はすおとゝこのゝそみをきゝたまひていとはなやかにうちわらひたまひて女御の御かたにまいりたまへるつゐてにいつらこのあふみの君こなたにとめせはをといとけさやかにきこえてきたりいとかへたる御けわひおほやけ人にてけにいかにあひたらむないしのかみのことはなとかをのれにとくはものせさりしといとまめやかにてのたまへはいとうれしとおもひてさも御けしきたまはらまほしう侍しかとこの女御とのなとをのつからつたへきこえさせ給てむとたのみふくれてなむさふらひつるをなるへき人ものしたまふやうにききたまふれはゆめにとみしたる心ちしはへりてなむむねにてををきたるやうに侍と申たまふしたふりいと物さはやかなりえみ給ぬへきをねむしていとあやしうおほつかなき御くせなりやさもおほしのたまはましかはまつ人のさきにそうしてましょほきおとゝの御むすめやむことなくともこゝにせちに申さむことはきこしめさぬやうあらさるまいにても申ふみをとりにつくりてひゝしうかきいたされよなかうたなどの心はへあらむをこらんせむにはすてさせ給はしうへはそのうちになさけすてすおはしませはなといとようすかしたまふ人のおやけなくかたはなりや山とうたはあしゝもつゝけ侍なむむねゝしき方のことはたとのより申させたまはゝつまこえのやうにて御とくをもかうふりはへらむとてをゝしすりてきこえゐたりみき丁のうしろなどにてきく女房しぬへくおほゆ物わらひにたへぬはすへりいてゝなむなくさめける女御も御おもてあかみてわりなうみくるしとおほしたりとのもゝのむつかしきおりはあふみの君みるこそよろつまきるれとてたゝわらひくさにつくり給へとよ人はゝちかてらはしたなめたまふなどさまゝいひけり